

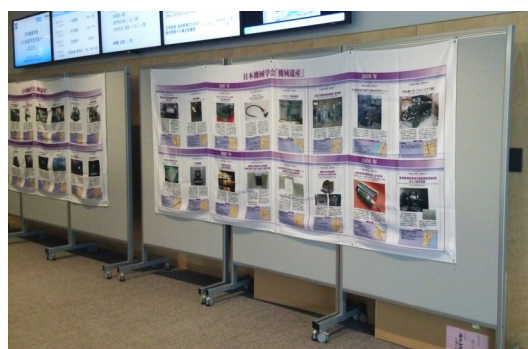
年次大会における『技術と社会部門』の活動に参加して

北海道科学大学  
太田 佳樹

2014年度の年次大会が9月7日から10日の4日間にわたって東京電機大学・千住キャンパスで開催された。筆者は次年度の当部門の年次大会担当を務めており、そのような立場から今回参加させて頂きましたので報告したいと思います。もちろん、これまでも年次大会には幾度となく参加してきておりますが、当部門の行事に参加したのは初めてであり、これまでの年次大会とは全く違った面を体験できた数日間でありました。

まず、大会プログラムに記載されている当部門の行事を挙げてみると

- OS 『技術教育・工業教育』(講演21件)
- OS 『機械技術史・工学史』(講演9件)
- WS 『産業考古学シリーズ』
- WS 『戦後の技術開発史を語る』
- WS 『知的財産の戦略と進化』
- WS 『設計者の有罪/運営者の無罪をどうかん  
がえるか-渋谷シエスパ事故を事例として-』
- 特別行事『工業教育・技術教育のための教材  
開発や行事企画運営』
- 特別行事『日本機械学会「機械遺産」のポスター展示』



「機械遺産」ポスター展示

および『部門一般講演セッション』となっております。

今回これらすべての行事に参加できたわけではなかったが、参加したいずれの行事もこれまで自分が参加してきたものとはちょっと違ったものであり、総じて感じた印象としては今の時代だからこそ、またはそれなりの年代になった今だからこそ「なるほど！」とか「大切だよな～」と感じさせられ、自分の認識の中の年次大会とは思えないほどの領域(?)の広さを感じられるものでした。

OS 『技術教育・工業教育』においては、筆者も他部門の工業教育に関するOSや他学協会の講演会に参加したことはあったものの、それらは高専・大学における力学教育であったり工学教育などであったのに対して、例えば学生の『親子もの作り講座』などにおける関わりであったり、その教材作りであったり、教員から若い人に対する教育だけでなく、ちょっと違った観点からの講演発表が特に興味深かった。もちろん、高専・大学における工学教育自体に関する講演発表もあって、今後は例えば他分野の先生方との交流により、より新たな方向に議論が展開するのではと感じる面もあった。

一方、『工業教育・技術教育のための教材開発や行事企画運営』に参加した際、『市民フォーラム』という位置付けでもあったためか明らかに非会員と思われる方も多数参加されており、当初はスラ

イドを用いた説明にちょっと堅めな雰囲気が始まったものの、時間が経つにつれて加藤先生(大分大)がご用意されたスターリングエンジンのまわりに多くの方が集まってきて、わいわい楽しそうに皆さん同士で、まるで男の子のように話をされていたのが印象的であった。

さらに、「機械遺産」ポスター展示においては、大久保先生(玉川大)や佐藤先生(神奈川工科大)をはじめアルバイト学生らが大忙しにご準備されているのを横目(「大久保先生、佐藤先生、ごめんなさい!」)に、初めて見るいろいろな「機械遺産」ポスターに目を奪われておりました。お恥ずかしいながら、これほどのものとは知らなかった自分を恥じてしまいました。また、特に今年度は、設置場所が総合受付から講演会場に向かうメインの通路であったことも、多くの方の目に触れて非常に良かったのではないかと感じました。

部門同好会は、年次大会担当の吉田先生(都立産業技術高専)のお世話で、千住らしい『どぜう(どじょう)』専門店で開催され、『どぜう』に引き寄せられた20名弱の参加者は、『上手いどぜう』を食しながら、有意義なひとときを過ごされていました。もちろん、食いしん坊の筆者も、皆さんとの会話をよそに『どぜう』を充分楽しませて頂きました。ありがとうございました!

さて、次年度の年次大会のことにも触れさせてください。次年度の年次大会は9月13日(日)から9月17日(木)の間に、北海道・札幌の北海道大学において開催されます。本州で9月といえば、まだまだ残暑が厳しい季節かもしれませんが、札幌ではもう夏の暑さの峠も過ぎて心地よい秋風が吹くことも少なくない時期です。多数の会員の方のご来道をお待ちしております。当部門としても、13日の市民フォーラム『お湯で動く模型スターリングエンジンの理論と実際』から始まり

OS『機械技術史・工学史』

OS『工学・技術・環境教育』

OS『力学教育に関する導入教育と専門教育』(機械力学制御部門との合同提案)

WS『産業考古学シリーズ』

WS『戦後の技術開発史を語る』

の行事を現在計画しております。特に今回は『力学教育における導入教育と専門教育』に関するOSを機械力学・計測制御部門の先生方と共同で企画しており新たな展開も期待できます。また、WSにおいては北海道・札幌に関わる歴史なるものを何とか盛り込めないかのご準備頂いているようです。もちろん、同好会も千住の『どぜう』までとはいかないものの、皆さんが気軽に参加頂けて、楽しく過ごせる同好会を企画したいと考えております。

最後になりますが、今回の年次大会に参加して、改めて本部門の活動の一部を見ることが出来ました。筆者は主に機械力学・制御部門で活動しておりますが、今後は機会あるごとに当部門の行事にも参加してみようと考えております。ともあれ、9月の年次大会で皆さんにお会いできるのを期待して本報告を締めさせていただきます。

日本機械学会技術と社会部門ニュースレター: <http://www.jsme.or.jp/tsd/news/index.html>

日本機械学会

技術と社会部門ニュースレターNo.32

(C)著作権:2015 一般社団法人日本機械学会 技術と社会部門